

至 誠

令和5年1月31日発行



心の中の「鬼」を追い出そう！ ～1月30日朝会 校長講話より～

「鬼は外！」もうすぐですね。今年は2月3日、金曜日です。何のことか分かりますか？「鬼は外、福は内」。ヒントは「豆まき」です。もう、分かりましたね。「節分」です。お家で行う予定の人もいると思います。

もともと「節分」とは、「季節の節目」を意味しており、「立春、立夏、立秋、立冬の前日」のことを指し、年に4回あるそうです。旧暦では春から新しい年が始まったため、立春の前日の節分（2月3日頃）は、大晦日に相当する大切に特別な日でした。そこで、立春の前日の「節分」が重要視され、「節分」といえばこの日を指すようになったそうです。「節分」と言えば「豆まき」をイメージする人が多いと思いますが、昔は、「季節の分かれ目」、特に「年の分かれ目」には邪気が入りやすいと考えられており、さまざまな「邪気祓い（はらい）行事」が行われてきました。「豆まき」も、新年を迎えるための邪気祓い行事です。

では、なぜ「鬼」なのでしょう。鬼は「邪気や厄の象徴」とされ、形の見えない災害、病気、飢饉など、人間の力ではどうしようもない恐ろしい出来事は、昔から「鬼の仕業」と考えられてきました。

「鬼」というと、「桃太郎」「一寸法師」などの昔話に登場する「鬼」が有名です。また、怖かったりひどいことをしたりする人のことを、「鬼〇〇」なんて言い方をするときもありますね。

節分に登場する鬼は、「人間の心」にある、「人のことをうらんだり、憎んだり、うらやんだりする」など、人間が持っている「弱い心」を表すこともあるようです。つまり、「鬼」は、「人の心の中にいる」ということです。皆さんにもそんな弱い心（心の中の鬼）はありませんか？

宿題やお手伝いがあるけれど、「遊びたいし、まあいいか…」というような「なまけオニ」。思うようにいかないとすぐに腹を立ててしまう「ぷんぷんオニ」など。この機会に、そんな自分の中にある、困ったオニをやっつけてしまいましょう。

先生も心の中にある困ったオニをやっつけようと、「こんなオニ（心）をやっつけろ！」プリントを作りました。そして、先生方にもご協力いただき、作成していただきました。皆さんは、自分のどんな「心のオニ」を退治したいですか。「自分もやってみたい（考えてみたい）」と思う人がいたら、「こんな鬼（心）はやっつけろ！」プリントを差し上げます。ぜひ校長先生に声をかけてくださいね。

